

本校・西彼杵分教室では、学校評価として「保護者と教職員へのアンケート（学校関係者評価）」「各学部と各校務分掌部の年間の重点目標に対する評価（自己評価）」を行っている。これらの結果や成果、課題などを学校評議員会へ報告し、課題改善について助言等をいただき、次年度の教育活動等へ生かす。

4	<p>十分達成されている（よく当てはまる）</p> <ul style="list-style-type: none"> 目標に対して具体的方策が順調に進行しており、当初の成果が得られていると判断される状態 具体的方策を実施中であり、漸次その成果を検証しつつある状態
3	<p>おおむね達成されている（どちらかといえば当てはまる）</p> <ul style="list-style-type: none"> 改善に向けて共通理解をもち、具体的方策の実行に着手しつつある状態 改善の必要性に対して理解があり、具体的方策に対して取り組もうとしている状態
2	<p>どちらかという達成されていない（あまり当てはまらない）</p> <ul style="list-style-type: none"> 改善の方向性はあるが、共通理解が十分ではなく全体として停滞している状態 改善の方向性を探っている状態
1	<p>ほとんど達成されていない（まったく当てはまらない）</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題意識をもってはいるが、手つかずの状態 現状に満足し、問題意識にまで考えが及んでいない状態

1 教育活動について

○4段階の平均値が、保護者（3.70→3.61）、教職員（3.34→3.25）となり、昨年度より約0.1ポイント、下降する結果となった。

○保護者の評価について

- 平均ポイントは下がったものの19項目中14項目で3.6以上の高い評価をいただいている。
- 「9：一人一人の生き生きとした活動の様子が見られる」では、0.3上昇しており、行事や授業を観ていただくことで教育活動への理解が深まることにつながるため、参観いただけるような機会の設定と呼び掛けを今後も行っていきたい。
- 昨年度から0.3以上下がった項目が5項目あり、特に「16、17、19」の項目の生徒の将来に向けた情報提供や進路指導が課題として捉えられるので、積極的な情報発信とより丁寧な説明で保護者の理解を得ながら取り組んでいくことが必要である。

○教職員の評価について

- 昨年度から0.3以上下がった項目が6項目あり、保護者と同様の項目で評価が低い傾向となった。保護者への情報提供と連携を強化していけるよう取り組んでいくことが重要と考える。
- 「11、14」の項目では0.3上昇しており、日頃から力を入れて取り組んでいることの評価が実感として現れているものと考えられる。

2 教育環境について

○4段階の平均値が、保護者（3.73→3.60）、教職員（3.20→3.23）となり、保護者の平均ポイントは下がったもののすべての項目で3.6の高い評価をいただいている。

3 開かれた学校について

○4段階の平均値が、保護者（3.60→3.30）、教職員（3.25→3.10）となり、保護者・教職員とも下降する結果となった。

○「24：PTA活動に参加しやすいよう配慮している」では、保護者・教職員ともにポイントが低くなった。本校と合同の組織であり、分教室単独の取組は少ないが、PTA活動に参加しやすいように保護者との情報共有を図っていきたい。

○「25」の情報発信については、教職員において下降しており、昨年度に比べるとHPの更新が減っていることが要因として考えられる。HPの定期的な更新や分教室だよりの発行など今後も継続して取り組んでいきたい。

4 総括

評価の総計（下表）は、保護者（3.68→3.50）、教職員（3.26→3.19）となり、昨年度より保護者・教職員とも下降する結果となった。

保護者においては、全体数が少ないことと全員からの回答が得られなかったこともあり、一人当たりのポイントにおける度合いが大きく、各項目において昨年度からポイントの上下の変化が見られるが、25項目中3.6以上が18項目、3.5以下が7項目となり、多くの項目で高い評価をいただき、おおむね理解を得られているものと推察できる。

教職員については、25項目中3.2以上が14項目、3.1以下が11項目で平均以上の項目が多いものの、課題の項目も半数近くある結果となった。

引き続き、生徒の学習活動への理解・啓発を含め、保護者や地域へ情報発信に努めていながら、教職員の努力や学校全体の取組の成果を目に見えるようにしていきたい。特に保護者の評価で「わからない」と回答する項目もあったことから、指導や取組の実際を理解していただけるような工夫が必要であると考えます。

	1 教育活動		2 教育環境		3 開かれた学校		総計	
	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4
教職員	3.25△	3.34	3.23↑	3.20	3.10△	3.25	3.19△	3.26
保護者	3.61△	3.70	3.60△	3.73	3.30△	3.60	3.50△	3.68

↑：向上 △：下降 -：同値

令和5年度 長崎県立鶴南特別支援学校高等部西彼杵分教室 学校評価 保護者アンケート結果

回収率 71%

番号	評価内容	今年度	昨年度
1 教育活動		3.6	
1	教育目標には児童生徒の実態に合った教育ニーズや願いが盛り込んである。	3.6	3.5
2	教育活動と目標は適切で、保護者に理解を得て実践している。	3.6	3.5
3	特色ある学年・部経営が行われ、児童生徒の成長のための取組を行っている。	3.8	3.8
4	保護者の希望や願いの声が届きやすく、学校運営に反映されている。	3.6	3.7
5	学校は、児童生徒が主体的に活動しようとする指導内容や学校行事を行っている。	3.4	3.7
6	教職員は、自分の個性を発揮し、明るく活気のある学校作りを行っている。	3.6	3.8
7	教職員は、専門性をもって指導に取り組んでいる。	3.4	3.7
8	学校は、「個別的教育支援計画」について保護者と話し合いながら適切に取り組んでいる。	3.8	3.8
9	学校行事や授業などで、一人一人の生き生きとした活動の様子がみられる。	4	3.7
10	児童生徒への指導が一人一人に工夫され、授業を分かりやすくしている。	3.6	3.8
11	学校は、基本的な生活習慣や挨拶、礼儀などが、身に付く指導をしている。	3.6	3.7
12	学校は、児童生徒の立場に立った声かけをしたり、相談を受けたりしている。	3.8	3.8
13	学校は、児童生徒の命を尊び、人権を尊重した取組を行っている。	3.8	3.8
14	学校は、児童生徒の事故防止に努め、適切な指導をしている。	3.6	3.7
15	学校と家庭が必要な情報を共有し連携した体制になっている。	3.6	3.7
16	学校は、児童生徒の成長に合わせ将来を見通した進路指導をしている。	3.4	3.7
17	学校は、児童生徒の将来の夢や願いの実現に向けた情報を提供している。	3.4	3.7
18	学校は、いじめが起きにくい・いじめを許さない環境づくりに取り組んでいる。	3.8	3.8
19	学校は、現場実習や進路開拓(一般就労・福祉就労等)を十分に行っている。(高のみ記入)	3.3	3.7
2 教育環境		3.6	
20	学校は、安心・安全な施設・設備が整っている。	3.6	3.7
21	児童生徒の学習に必要な教育環境が整えてあり、活用されている。	3.6	3.8
22	学校は、校舎内外の施設が整備され、清潔な学校づくりに努めている。	3.6	3.7
3 開かれた学校		3.3	
23	学校公開など、地域の人が来校しやすい機会や学校行事を設けている。	3.3	-
24	PTA活動に参加しやすいよう配慮している。	3	3.5
25	学校の情報をホームページや各種便りなどで伝えている。	3.6	3.7

回収率 100%

番号	評価内容	今年度	昨年度
1 教育活動		3.3	
1	教育目標には児童生徒の実態に合った教育ニーズや願いが盛り込んである。	3.6	3.3
2	教育活動と目標は適切で、保護者に理解を得て実践している。	3.0	3.3
3	特色ある学年・部経営が行われ、児童生徒の成長のための取組を行っている。	3.4	3.3
4	保護者の希望や願いの声が届きやすく、学校運営に反映されている。	3.1	3.0
5	児童生徒が主体的に活動しようとする指導内容や学校行事を行っている。	3.3	3.4
6	自分の個性を発揮し、明るく活気のある学校作りを行っている。	3.5	3.4
7	専門性をもって指導に取り組んでいる。	3.0	2.9
8	「個別の教育支援計画」について保護者と話し合いながら適切に取り組んでいる。	3.3	3.4
9	学校行事や授業などで、一人一人の生き生きとした活動の様子がみられる。	3.4	3.6
10	児童生徒への指導が一人一人に工夫され、授業を分かりやすくしている。	3.1	3.4
11	基本的な生活習慣や挨拶、礼儀などが、身に付く指導をしている。	3.3	3.0
12	児童生徒の立場に立った声かけをしたり、相談を受けたりしている。	3.6	3.8
13	児童生徒の命を尊び、人権を尊重した取組を行っている。	3.4	3.4
14	児童生徒の事故防止のための研修や指導をしている。	3.4	3.1
15	学校と家庭が必要な情報を共有し連携した体制になっている。	3.1	3.4
16	児童生徒の成長に合わせ将来を見通した進路指導をしている。	3.0	3.4
17	児童生徒の将来の夢や願いの実現に向けた情報を提供している。	2.9	3.4
18	いじめが起きにくい・いじめを許さない環境づくりに取り組んでいる。	3.3	3.5
19	現場実習や進路開拓(一般就労・福祉就労等)を十分に行っている。(高のみ記入)	3.1	3.4
2 教育環境		3.2	
20	安心・安全な施設の整備に心がけている。	3.5	3.1
21	児童生徒の学習に必要な教育環境が整えてあり、活用されている。	2.9	3.1
22	校舎内外の施設が整備され、清潔な学校づくりに努めている。	3.3	3.4
3 開かれた学校		3.1	
23	学校公開など、地域の人が来校しやすい機会や学校行事を設けている。	3.4	-
24	PTA活動に参加しやすいよう配慮している。	2.9	2.9
25	学校の情報をホームページや各種便りなどで伝えている。	3	3.6

学校評価（高等部西彼杵分教室 自己評価）

重点目標	総合評価	成果	課題
基本的な生活習慣を確立しつつ、一方で一人一人の将来の生活に想定した、それぞれの課題に対する自分なりの解決方法を身に付けさせる。よりよい家庭生活を送るために必要な知識や技能の習得を図り、実際の生活に生かそうとする態度を育てる。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での手伝いを継続して行っている生徒がいる。家庭科で学んだことを宿題にすることで、電化製品の使い方など学ばせることができた。 ・朝食を食べていなかった生徒が食べるようになり、身長や体重の増加が見られた。 ・現場実習前から、日記の感想の行数を4行最後まで書くようにしたが、詳しく感想を書こうという姿が少しずつ見られるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者との距離感や会話のマナーに課題がある生徒がいる。自立活動や学級活動全般において継続的に指導して改善していく。 ・家庭での手伝いの種類や量が増えると、今後の職業選択の幅が広がることなどを話して、家庭での手伝いを増やしていく。 ・長期休業中や環境の変化に対応できず忘れ物をする生徒がいた。
集団の中で役割を果たしたり、仲間や周囲の人々と協力・協調したりしながら社会参加を図るために、責任ある行動を取ろうとする態度を育てる。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・係活動では責任をもって行動できる生徒が増え、協調性が見られた。 ・西彼杵高校との合同行事（体育祭や文化祭など）では、高校の生徒と一緒に意欲的に取り組むことができた。実行委員の生徒は、事前の話し合いや準備、当日の発表など自分の役割に責任をもって取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他学年の生徒や高校の生徒に対して、過度に関わったり、逆にうまく関われなかったりする生徒がいた。 ・高校との合同行事では、活動の見通しをもたせるなどの支援が必要だが、生徒主体のため見通しをもちづらい状況がある。臨機応変に対応する力も育てていく必要がある。
作業学習や現場実習・進路の学習などを通して、職業生活に必要な働く力と態度を養うとともに、自分の進路について自分で選択し、決定する力を育てる。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・現場実習などを通して、自分の課題を見付けたり、進路について考えたりすることができた。 ・職業の授業で卒業までの進路の流れについて確認することで、卒業後の働く意識をもつことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の進路希望と、今の自分の力が伴っておらず、高望みになっている生徒や、希望の進路先がぼんやりしている生徒がいる。仕事に対する職種や業務内容を知る学習を深めたり、進路選択に向けて力を高めるために必要な課題について本人と確認したりしながら、進路実現に向けて意識をさせた学校生活を送ることができるよう支援していく。

4: 十分達成している

- ・目標に対して具体的方策が順調に終了し、当初の成果が得られたと判断される状態
- ・目標に対して具体的方策が順調に進行しており、当初の成果が得られていると判断される状態

3: おおむね達成している

- ・具体的方策を実施中であり、漸次その成果を検証しつつある状態
- ・改善に向けて共通理解をもち、具体的方策を実行している状態

2: どちらかというと達成されていない

- ・改善に向けて共通理解をもち、具体的方策の実行に着手しつつある状態
- ・改善の必要性に対して理解があり、具体的方策に対して取り組もうとしている状態

1: ほとんど達成されていない

- ・改善の方向性はあるが、共通理解が十分ではなく全体として停滞している状態
- ・問題意識をもってはいるが、改善の方向性を探っている状態